



Title	国宝 称名寺聖教『西域記伝抄』翻刻と解題(1)
Author(s)	蒲, 姣艶
Citation	詞林. 2025, 77, p. 31-55
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100773
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

国宝 称名寺聖教『西域記伝抄』翻刻と解題(1)

蒲姣艶

【凡例】

一、本資料は、称名寺所蔵、神奈川県立金沢文庫管理 国宝 称名寺聖教『西域記伝抄』【二七三函〇〇一号】を翻刻したものである。

一、翻字にあたっては、削除・改訂などは原則として一切行わず、改行・空白なども原文通りにし、できるだけ資料を忠実に活字化した。旧字・俗字・略字また異体字は通常の漢字に改め、常用漢字を用いた。

一、虫損・汚損による不明箇所は、その字数に応じて、□□をもつて示した。文脈から推測できるものをその文字の右傍に（か）で附記した。判読不能の箇所は■にした。

一、推敲・補訂を重ねたその痕跡を残すため、見せ消ちまた抹消箇所は、文字の右に（シ）を付した。

一、表紙の欠失により、題名不詳のものは、（仮題）とした。落丁の場合は、（全欠）（中欠）（後欠）と記し、頁ごとに「」を付した。

一、仮名および訓点などは、原則として原文の表記通りにしたが、古様の仮名は通常の仮名に、また「ㄱ」は「こと」に、「ソ」は「シテ」に改めた。

一、原文に句読点がなく、それを私に補った。

一、踊り字「々」を「々々」にした。また本文にわずかにある声点や合点については、印刷の都合で略した。なお中央に付される返り点は印刷の都合で左側に統一した。

一、本文に補入記号のある箇所に、補入字句を（ ）で括って本行に記した。

一、「𑖀」・「𑖁」・「𑖂」などは菩薩・涅槃・娑婆に改めた。一、割注は〈 〉で示した。

一、異本による書込はその字の右に（イ）で記した。

一、便宜的に、表紙の左側に装丁・法量・資料番号を記した。

【翻刻一】

(1)

迦式色迦王伏悪竜事

一之二了

西記

為超日王被斥■

如意論師最後■弟子世親ニ云

党援之衆^{エン} 無^{ニハ}競^{コト}大義^ヲ

群迷之中^{ニハ} 無^レ弁^{コト}正論^ヲ

粘葉装 十五・三×十一・五種【二七三函〇〇一号〇一】

〔見返し〕

匂兵部 云神ノマスナント云事神マツリト云風俗也

八乙女云事

此歌^ハ二段ノ哥也

ヤオトメハ ワカヤヲトメニ

タツヤ、ヲトメ タツヤ、ヲトメ

二段

カミノマス コノミヤシロニ

タツヤ、ヲトメ タツヤ、ヲトメ

王城ノ西北二百余里、至^{ニシテ}大

雪山、々頂有^ニ池、請^{コヒ}雨祈^{ライノルニ}晴、

随^テ求^{ニハタス}果^ヲ願^{クニ}。聞^{クニ}諸先志^ヲ曰^ク、昔^シ

健駄邏国^{ニリ}有^ニ阿羅漢、常^ニ

受^ク此池竜王供養^ヲ、每至^{ニル}中

食^ニ、以^テ神通力^ヲ并^{ハセテ}坐^セ繩牀^ノ、

陵^{シノヒデ}虚而往^ヲ。侍者沙弥密^{ヒソカニ}

於^{ヲヒテ}繩牀之下^ニ攀授^{ヨデトデカクレ}潜隱^ル、

而阿羅漢時至便往^テ、至^テ竜

宮^ニ、乃見^ル沙弥^ヲ。竜王因請^{テテ}

留^メ食^{セシム}。竜王^ニ以^テ天甘露^ヲ飯^シ阿
羅漢^一、以^ニ人間味^ヲ而饌^ス沙弥^一。阿
羅漢飯食^{スルコトニテ}已^テ訖^ニ、便^ニ爲^ル竜王^一、
說^ク諸法要^ヲ。沙弥如^ク常^ニ爲^ル師^一、
滌^ス器^ヲ、々^ニ有^ル余粒^一、駭^{ヲトロキ}其香味^ニ、

即^{シテ}起^ル惡願^ヲ。恨^ミ師忿^ル竜^ヲ、「願^ハ
諸福力^ヲ、於^テ今悉現^{ニシテ}、斷^{タテ}此^ノ
竜命^ヲ、我自^レ爲^ル王^ト」。沙弥発^ス是
願^ヲ時、竜王已^ニ覺^ル頭痛^{ノコトヲ}矣。
羅漢說^テ法誨^ヲ、竜王謝^レ

咎^ヲ（責）躬^ヲ。沙弥懷忿^ニ、未^{スレ}從誨^ニ
謝^ニ。既還伽藍^ニ、至誠發^ス願^ヲ、福
力所^レ致^ニ、是夜^{コヨヒ}命終^{ニテ}、爲^ル大竜
王^ト、威猛奮發^{シテ}、遂來入^ル池^ニ、殺^ス
竜王^ヲ、居^ス竜宮^ニ、有^{タモテ}其部属^ヲ、總^フ

其統命^ヲ。以^テ宿願^ヲ故^ニ、興^{シテ}暴風^ヲ
雨^ヲ、摧^ク拔樹木^ヲ、欲壞^ス伽藍^一。
時迦膩色迦王怪^テ而發^ス問^ヲ、
其阿羅漢具^ニ以^テ白^ス王^ニ。々^ニ即^ニ爲^ル
竜^ヲ於^ニ雪山下^ニ立^テ僧伽藍^ヲ、建^ニ

窰堵波^ヲ、高百^{ナリ}余尺^ヲ。竜懷^ニ宿
忿^ヲ、遂發^ス風雨^ヲ。王以^テ弘濟^ヲ爲^ル心^ト、
竜乘^テ瞋毒^ニ作^ル暴^ヲ、僧伽藍、窰
堵波六^{タビシテ}壞^{ヒス}七^{ヒス}成^ス。迦膩色迦王
恥^テ功不^レ成^ニ、欲^{シテ}填^ミ竜池^ヲ、毀^ク其居

室^ヲ、即興^{シテ}兵衆^ヲ、至^ル雪山下^ニ。
時彼竜王深懷^ニ震懼^ヲ、變^{シテ}
作^テ老婆羅門^ト、叩^{ヒカヘテ}王象^ヲ而
諫^{メテ}曰^ク、「大王宿植^{ムカシウヘテ}善本^ヲ、多^ク種^{タリ}
勝因^ヲ、得^ル爲^ル人王^ト、無思不^レ服^セ。

今日何故与竜交争。夫
竜者、畜也。卑下惡類、然
有大威、不可力競。乘雲
馭風、蹈虚履水、非人力所
制、豈王心所怒哉。王今拳

国興兵、与一竜闘。勝則王
無服遠之威、敗則王有非
敵之恥。為王計者、宜可帰
兵。迦賦色迦王末之徒也。
竜即還池、声震雷動、

暴風拔木、沙石如雨、雲霧
晦冥、軍馬驚駭。王乃帰命
三宝、請求加護、曰「宿殖多
福、得為人王、威懾強敵、統
部洲、今為竜畜所屈、誠

我之薄福也。願諸福力、於
今現前」。即於兩肩起大煙
焰、竜退風靜、霧卷雲開。
王令軍衆一人担一石、用填
竜池。竜王還作婆羅門、重

請王曰、「我是彼池竜王、懼威
帰命。唯王悲愍、赦其前過。王
以含育、覆燾生靈、如何於
我、独加惡害。王若殺我、我
之与王俱墮惡道。王(有)斷命之

罪、我懷怨讎之心、業報皎
然、善惡明矣。王遂与竜明
設要契、後更有犯、必不相
赦。竜曰、「我以惡業、受身為
竜。々性猛惡、不能自持。

瞋心或^{アテハ}起^ル、当^{コト}忘^{ニル}所^ヲ制^ス。王今
更^ニ立^ヨ伽藍^ヲ、不^シ敢^テ摧毀^セ。每遣
遣^テ一^ヲ人^ヲ候望^シ、山嶺^ヲ、黑黑
雲若起^{ラハ}、急擊^ニ鍵椎^ヲ、我聞
其声^ヲ、惡心^{ニヤム}当息^シ。其王於^レ

是更修^{ニシテ}伽藍^ヲ、建^{テ、}窣堵^(二)堵
波^ヲ、候^ヒ望^{コト}雲氣^ヲ、於今不^レ絶^ヘ。聞^{クニ}
諸先志^ヲ曰^ク、窣堵波^ノ中有^{ニリ}二如
来骨肉舍利^ヲ、可^{ハカリナリ}二一升余^ヲ。神
變之事^ヲ、難^シ以詳述^ニ。一時中^ニ

窣堵波^ノ内忽有^ニ煙起^ル、少
時間^ヲ、便出^ス猛焰^ヲ、時人謂^{フモヘリ}三窣
堵波^ニ已從^{コト}火燼^ニ。瞻仰^{スルコトヤクシテ}良久
火滅煙消^{シテ}、乃見^ル舍利^ヲ、如^{シキ}白
珠璫^{ハシノ}、循^{シユンクワンシテ}環^ニ表柱^ヲ、宛轉^{トシテ}而上^ル、

昇^{ノホテ}高雲際^{ノアタイカニクリズクテ}、縈旋^{ウタクル}而下^ヲ。

〔末尾〕
賭射還饗^{ノリユミノカヘリキヤウノ}事

清和天皇貞観二年正月十一日

(2)
五之一

随智惠深淳免僧役事
敬僧九等事

記第二

■ ■ ■ 食^ハ以^テ一器^ヲ衆味相調^フ手指^ヲ斟酌^ヲ略^ス
元^ヒ箸^ヲ至於病患^ニ乃用銅匙^ヲ
如^ケ来錫杖^{アリ}白鉄作鑽^ト一梅檀^ヲ為^{カウ}箭^{エニス}

粘葉装 十五・四×十一・四糰 【二七三函〇〇一号〇二】

西域記卷第二

各制^ス二科防^ヲ。無^{シテ}解^ル二論律^ヲ。凡^ソ是^レ仏
經^ヲ、講^ス二宣^ハ。一^部乃^メ免^ス僧知事^ヲ。
二^部加^ハ二上房資具^ヲ。三^部差^{ニハサシテ}
侍者^ヲ一祇承^{シセム}。四^部給^ハ二淨人^ヲ一使^{ヲカシム}。

五^部則^ハ行^{クトキニラシム}。乘^ニ象輿^ニ。六^部又^ハ
導^{シヨウ}從^ス周衛^ス。道^ニ德既^ニ高^{シテ}旌^セ
命^{ナリ}亦^{ナリ}異^ニ。時^ニ集^テ講^{シテ}論^{ヘテ}、考^{ヘテ}其^ノ優^ニ
劣^ヲ。彰^シ別^シ善^ヲ惡^ヲ。黜^{クキ}二陟^ニ幽^ニ明^ヲ。其^ノ
有^ル二商^ヲ推^ハ微^シ言^ヲ、抑^シ揚^シ妙^ニ理^ヲ、雅^ニ辭^ヲ

瞻^{セン}美^{ニシテ}、妙^{セウ}弁^{ナル}敏^{ナル}捷^{コト}。於^ノ是^セ是^セ駁^ニ二乘^ヲ
宝^ニ象^ヲ、導^{シヨウ}從^シ如^ニ林^ニ。至^{テハ}下^ニ乃^メ義^ニ門^ニ虛^ク
闢^{ヒラキ}、辭^{クシカヒイヲ}鋒^シ挫^シ銳^ヲ、理^ニ寡^{ニシテ}而^ハ辭^{ハク}繁^ク、
義^ニ乖^テ而^ハ言^{コト}順^{ナル}、遂^ニ即^ニ面^ニ塗^ニ積^{シヤ}
聖^{アツク}、身^ニ空^ニ塵^ニ土^ヲ、斥^{シリソケ}二於^ニ曠^ニ野^ニ棄^{ニツ}
シラツキ

之^ノ溝^ニ壑^ニ。既^{アラ}旌^{ハレシ}二淑^ニ慝^ニ一。亦^{アラ}表^{ハセ}二賢^ニ愚^ニ一。
人^ノ智^ヲ樂^ニ道^ヲ、家^ニ勤^ニ志^ニ學^ニ。出^ハ家^ニ
婦^{シテ}俗^ニ、從^フ二其^ノ所^ニ好^ム。羅^{アヒ}答^ニ犯^ニ律^ハ、
僧^{クキ}中^ニ科^ニ罰^ス。輕^{キハ}則^{シテ}衆^ニ命^ニ訶^ニ責^{セシム}、
次^ハ又^{トモ}衆^ニ不^ニ與^{モツノイハ}語^ハ、重^ル乃^ニ衆^ニ不^ニ共^ニ

住^セ。不^ル共^ニ二住^ニ處^ニ一、重^ニ者^ハ、斥^{シヤク}擯^{ヒンシテ}不^{ヨハ}レ齒^セ、
出^ス二住^ニ處^ニ一、措^{ヲク}身^ニ無^{シテ}所^ニ、羈^ニ旅^ニ
難^ス辛^ニ、或^ハ返^ル二初^ニ服^ニ一。
致^スレ敬^ヲ之^ヲ式^ヲ其^ノ儀^ニ九^ニ等^ニ。一^ニ發^ニ言^{コトヲ}
慰^ス問^ス。二^ニ俯^ニ首^ニ示^ス敬^ヲ。三^ニ舉^ニ手^ニ高^ク
揖^{イツ}。四^ニ合^ニ掌^ニ平^ニ拱^ス。五^ニ屈^ニ膝^ニ。六^ニ長^ク

跪^ス。七^ニ手^ニ膝^ニ踞^{ニシテフル}地^ニ。八^ニ五^ニ輪^ニ俱^ニ屈^ニ。九^ニ五^ニ
體^ヲ一投^{ナク}地^ニ。凡^ソ斯^ノ九^ノ等^ハ、極^ニ唯^ニ一拜^{ニシテ}跪^{ヒサ}而^ニ
讚^{スル}德^ヲ、謂^フ二之^ノ尽^{スト}敬^ヲ。遠^{キハ}則^{シテ}稽^ニ顙^ニ類^ニ拜^{ヒサ}
手^ス、近^{キハ}即^{ネフリ}舐^{ヲナツ}足^{クヒ}摩^{クヒ}踵^{ツノ}。凡^ソ其^ノ致^ツレ辭^ヲ

受^ル命^ニ、褰^カ裳^ケ長跪^ス、尊賢^ノ受^レ拜^ヲ、
必^リ有^ニ慰辭[。]或^ハ摩^テ其頂[、]或^ハ拊^タ其^キ、

背^ヲ。善言^シ誨導^ス、以示^テ親厚^ヲ。出家^ノ沙
門、既^{ツレハ}受^ニ敬禮^ヲ、唯^{ヘテ}加^ニ善願^ヲ、無^シ止^ニ跪拜^ニ。
隨^レ所^ニ宗事^{スル}、多^ク有^ニ旋繞[、]或^ハ唯^一周、
或^ハ復^タ三匝^ス。宿心^{スルハ}別請[、]數^フ則^ニ從^レ欲^ニ。

(3)

五之二

四種姓事

四兵事

四罪過四件事

西記第二

粘葉裝 十五・三×十一・五種【二七三函〇〇一號〇三】

〔見返し〕

勾兵部卿ノカノカウハシソコノ代ノ勾ナラス云
香ノ薰^{カウハシキ}人^{ニハ}モロコシニハ、黃帝、燕姬
一行阿闍梨。吾朝^{ニハ}聖德太子、

光明皇后也。

義淵僧正^ハ大和国高市郡人^{ナリ}。其父母

依無子、多年祈觀音之間、夜聞^テ少兒

啼音^ヲ、奇出見^ニ之[、]柴垣之上^ニ、有^ニ囊白帖^一

香氣^ク普滿^リ。歛^リ以^ニ取養[、]不^レ日長大、天智天

皇伝聞、相共皇子、令養岡本宮。

西域記卷第二

若夫族姓^{ナルハ}殊^リ者[、]有^ニ四流^一焉[。]一^ハ

曰婆羅門、淨行^{ナリ}也[、]守^テ道居^ヲレ

貞^ニ、潔^ニ白^ニ其操^ヲ。二^ニ曰利帝利、主

種也。〔旧日刹／利略也〕。奕世君臨、仁恕爲志。三日伏奢〔旧日毘／舍訛也〕。商賈也、貿遷有無、逐利遠近。四日戊陀

羅〔旧日首／陀訛也〕。農人也、肆力疇墾、

勤身稼穡。凡茲四姓、清濁殊

流、婚娶通親、飛伏異路、内外

宗枝、姻媾不雜。婦人一嫁、終无

再醮。自余雜姓、寔繁種族、各

隨類娶、難以詳載。

君主奕世、唯利帝利。纂弑時

起、異姓尊。国之戰士、驍士

驍雄異畢。選、子父伝業、

遂窮三兵術。居、則宮盧周衛、

征征。則奮旅前鋒。凡有四

兵、步馬車象。々則被以堅甲、

牙施二利距、一將安乘、授其

節度、兩卒左右、爲之駕馭。

車乃駕以二駟馬、兵帥居乘、

列卒周衛、扶輪挾轂。馬

軍散禦、逐北奔命。步車

軍輕捍、敢勇充選、負大

櫓、執二長戟、或持刀劍、前奮

行陣。凡諸戎器、莫不鋒銳。

所謂矛盾、弓矢刀劍鉞斧

戈爰長消輪索之属、皆世

習矣。夫其俗也、姓雖狷急、志

甚貞質、於財葉詭譎不行

無二苟得、於義有余讓、懼二冥

運之罪、輕生事之業、詭

謫不^{ケツ}行^ハ、盟誓^{メイセキ}為^レ信^ヨ。政教^{セイキョウ}尚^テ質^ヲ、
風俗^{フウソク}猶^レ和^ニ。凶悖^{キョウハイ}群小^{グンショウ}、時虧^ニ國憲^ニ、
謀^リ危^{アヤフム}君上^{キミノカミ}、事跡^{セキル}彰明^{ナレハ}、則常^ニ
幽^{トラヘテ}圜^{キギニ}、無所^シ刑戮^{スル}、任^{セテ}其生死^ニ、
不^レ齒^{ヨハヒセ}人倫^ニ。犯傷^{シテ}禮儀^ヲ、悖^{ミタリ}逆^{サカフルヲハ}、忠^ヲ
孝^ヲ、則剗^{キリ}鼻截^{ヲキリ}耳断^{ヲタチ}、手朋^{ヲタチ}足^ヲ、
或驅^ハ出^{カリ}國^{シヲ}、或放^ハ流裔^{スエイニ}。自余^ノ咎^ヲ
犯^ハ、輪^{イタシ}財贖^ヲ罪^ヲ。理^{ウタヘ}獄^ヲ、占^シ辭^ヲ、不^レ
加^{アイハ}荆朴^ヲ、随^ニ問款^ニ對^シ、捫^テ事平^ニ科^ス。
拒違^{シテ}所犯^ヲ、恥^ア過飾^{アル}非^ス。欲^{スル}究^ニ情^ヲ
實^{コハミ}、事須^{コト}案者^{スノ}、凡有^{テリ}四^ニ條^ニ水^ス火^ヲ
稱^{ナリ}毒^ハ。水則^ハ罪人^ト与^レ石^{イル}、盛^ニ以^ニ連^テ
囊^ヲ、沈^{メテ}之^ニ深流^ニ、校^{カン}其真偽^ヲ。人沈^テ
石浮^{ヘルハ}、則有^リ犯^リ、人浮^テ石沈^{ルハ}、則无^レ
隱^{カク}。火乃^{コトハ}燒^テ鑊^ヲ、罪人^ヲ踞^{マシメテ}上^ニ、復使^{タム}
二

足蹈^ニ、既遣^ニ掌案^ヲ、又令^ム舌^ヲ舐^テ虚^ハ
無^レ所損^{スル}、實有^ハ所傷^ハ。懦弱^{クシヤク}之人^ハ、
不^レ堪^ハ炎熾^ニ、捧^サ未開^ケ花^ヲ、散^{シテ}之^ヲ向^{ハシム}
焰^ハ、虚則^{ヒラキ}花發^カ、實則^{コカル}花焦^ヲ。称^ヲ則^ヲ
人石平^{クシテハカリヲ}、衡^ヲ、輕重^ル取^ル驗^ヲ、虚則^ハ
人低^{ヒ、クシテ}、石举^ケ、實則^ハ石重^シ、人輕^シ。
毒則^ハ以^テ一^ノ殺^コ殺^コ羊^ヲ、一^ノ部^ヲ剖^ヲ
其右髀^{ノノモ、ヲ}、随被^テ訟人^{ヘノ}所^ヲ食^ヲ之^ヲ
分^ニ、雜^{セテ}諸毒^ヲ藥^ヲ、置^ク二^ノ部^ヲ剖^ヲ髀^ヲ
中^ハ、實則^ハ（毒發^{シテ}而死^ス、虚則^ハ）毒歇^{カレテ}而蘇^{ヨミカヘル}、拳^{ケテ}二^ノ四^ヲ
条^ヲ之^ヲ例^ヲ、防^ク百非^ヲ之路^ヲ。
史記^ニ吳世家^ニ云
季札^{シテト}為^レ使^ヲ、向^ニ上國^ニ、路^ニ逢^フ徐君^ニ。
季札^{メトシテ}之初^ノ使^ヲ、北^ニ過^ル徐君^ニ。々々
好^{コノム}季札^ヲ劍^ヲ、口弗^ニ敢言^テ。季札^ニ

(4)

心^ニ知^テ之^ヲ、為^レ使^シ上^ニ国^ニ、未^ダレ^テ獻^ス。還^ル至^ル
徐^ニ、々^ノ君^ノ已^ニ死^リ。於^コ是^ニ乃^ハ解^リ其^ノ宝^ヲ
劍^ヲ、繫^カ之^ヲ徐^ニ君^ノ家^ニ樹^ニ而^モ去^ス。從^フ
者^ヲ云^ク、徐^ニ君^ノ已^ニ死^リ、尚^ホ誰^カ早^ニ。季^ノ札^ヲ
云^ク、不^レ然^ニ、始^メ吾^レ心^ニ已^ニ許^{シテ}之^ヲ。豈^ニ以^レ
死^ヲ倍^ニ吾^ノ心^ニ一^ニ哉^ニ。

五之三

西記第二

尺迦并值然灯仏得記別事
如来瞿波竜屈留影像事
依見真影真恨立止也

粘葉装 十五・四×十一・五糎【二七三函〇〇一号〇四】

濫波国

城東三里有二窠堵波、高三

百余尺、無憂王之所建也。

編石特起、刻二雕奇製、釈迦

菩薩值二然灯仏、敷二鹿皮、

衣、布レ髮掩泥、得二受記一処。時

經二劫壞、斯跡無泯。或有齋

日、天雨二衆花、群黎心競、式

修二供養。其西伽藍、少有二僧

徒。次南小窠堵波、是昔掩

泥之地、無憂王避二大路、遂

僻建焉。城内有二大窠堵

波故基。聞二諸先志一曰、昔有二

仏蘭、高曠^{ニシテ}、嚴麗^{ナリ}。今既無^シ。
 菌、唯余^{セリ}故基^ヲ。其側^ニ有^二窰^{ナリ}。
 堵波、高三十^サ余尺^{ナリ}。彼俗相^ノ。
 伝、不知^ラ源起^ヲ、云^ニ從空^{リソラクタリ}下^{リテ}、峙^テ。
 基^{キスト}於此^{ココニ}。既非^ニ人工^{ノニ}、寔^ニ為^二靈^ニ。
 瑞^ト。

城西南十^ニ余里^ニ有^二窰堵波^一、
 是如^レ來在^ニ日自中^{ヨリ}印度^{ノイテ}。
 虛遊化^ヲ、降^{クダ}跡於此^{ココニ}。國人感慕^{シテ}、
 建此^{ツク}靈基^ノ。其東不^{シテ}遠^{カラ}有^二。
 窰堵波^一、是^レ釈迦菩薩昔^シ。
 值然^{ニテ}灯^ニ仏^ニ於此^{ココニ}買^ヲ花^ヲ。

城西南二十^ニ余里^ニ至^二小石嶺^一、
 有^二伽藍^一、高堂重閣、積^ヲ石所^レ。
 成^ニ。庭宇寂寥^{セキレウトシテ}、絶無^ニ僧侶^一。

有^二窰堵波^一、高^{ナル}二百余尺^{ナリ}。
 無憂王之所^{ナリ}建^{チシ}也。

伽藍西南、深澗陷絶、瀑布^{シテハク}。

飛流^{レテ}、懸崖壁立^ス。東岸石壁^ニ。

有^二大^{ナル}洞穴^{ケツ}、瞿波羅竜之所^{ナリ}。
 居也。門徑狭小、窟穴冥闇、

崖石津^{ウルヲシタ、テケイケイセリ}、滴^{クワントシテ}、磳徑余^シ流^ヲ。昔有^二。
 仏影^ノ、煥^{クワントシテ}。若^シ真容^ノ、相好具足^{シテ}、

儼然^{トシテ}如^シ在^ニ近代^{ヨリ}已^タ來^ニ、人^{シテ}不^レ遍^ク。

賭、縱有^レ所^ル見^ル、髣髴^{ハウヒトホノオマナクノ玉}而已^{シテ}。至^レ。

誠祈請^ヲ、有^二冥感者^{スルノ}、乃暫^ク。
 明視^{ニレトモ}、尚不^レ能^ハ久^{コト}。昔如^シ來在^ニ。

世之時、此竜為^{シテ}二牧牛之士^ト、
 供王乳酪^{スニ}、進^ヲ奉時^ス（失^ス）宜^ヲ。既^ニ。

「

「

「

「

「

獲^テ二 讞^{ケン}責^{サツ} 心懷^{ニイ}二 悲恨^ヒ、以^テ金錢^{カネ}一
買^カ花^{ハナ}、供^ケ養^{ヤウ}受^{シユ}記^キ窣堵波^{サツト}、願^ニ
為^{ナリ}惡^ニ竜^{リウ}、破^レ国害^{コクガイ}王^ヲ。即^ニ趣^テ石
壁^ニ、投^ケ身^ミ而^{シテ}死^ス。遂^ニ居^ニ此^ノ窟^ニ、為^レ
大^ト竜王^{リウ}、便^ス欲^ス出^デ穴^ヲ、成^ニ本^{サント}惡^ノ

願^ヲ。適^ニ起^{ミテ}此^ノ心^ハ、如^ニ來^ニ已^{ミテ}鑑^ハ、愍^ニ
此^ノ国^ノ人^ノ為^レ竜^ノ所^ニ害^セ、運^ハ神^ハ通^ニ
力^ヲ、自^{シテ}中^ニ印^ノ度^ニ、至^リ玉^ヲ所^ニ。竜^ノ見^テ
如^ヲ來^ニ、毒^ニ心^ヲ遂^ニ止^ス、受^テ不^レ殺^ス戒^ヲ、
願^フ護^{ント}正^ヲ法^ヲ。因^ニ請^ニ如^ヲ來^ニ、常^ニ

居^{セシム}二 此^ノ窟^ニ、諸^ニ聖^ノ弟^ヲ子^ニ、恒^ニ受^ケ我^ガ
供^ヲ。如^ニ來^ニ告^テ曰^ク、「吾^レ將^ニ寂^{セント}滅^ニ、為^レ汝^カ
留^ヲ影^ヲ、遣^ニ五^ノ羅^ヲ漢^ニ、常^ニ受^ケ汝^ガ
供^ヲ、正^ニ法^ヲ隱^{ストモ}没^ノ、其^ノ事^ヲ無^ケ替^{タル}。汝^カ
若^シ毒^ニ心^ヲ奮^{セハ}怒^ニ、当^ニ觀^ニ吾^ノ留^{タル}

影^ヲ、以^ニ慈^ニ善^ヲ一故^ニ、毒^ニ心^ヲ当^ニ止^ム。此^ノ
(中)賢^ニ劫^ヲ当^ニ來^ニ世^ニ尊^ニ、亦^シ悲^ニ愍^{シテ}
汝^ヲ、皆^{メン}留^ニ影^ヲ像^ヲ。影^ノ窟^ノ門^ノ外^ニ
有^ニ二 方^ノ石^ノ、其^ノ一^ノ石^ノ上^ノ有^ニ二 如^ノ
來^ノ足^ノ蹈^ヲ、之^ノ跡^ヲ、輪^ニ相^ニ微^キ現^{シテ}、

光^ニ明^ニ時^ニ燭^ヲ。影^ノ窟^ノ左^ニ右^ニ多^ニ諸^ノ
石^ノ室^ノ、皆^ニ是^ニ如^ニ來^ニ諸^ノ聖^ノ弟^ノ子^ノ
入^ニ定^ノ處^ニ。影^ノ窟^ノ西^ニ北^ニ隅^ニ有^ニ二
窣^ノ堵^ノ波^ノ、是^ニ如^ニ來^ニ經^ノ行^ノ之^ノ處^ニ。
其^ノ側^ニ 窣^ノ堵^ノ波^ノ、有^ニ二 如^ニ來^ニ髮^ノ

爪^ノ。隣^ニ此^ノ不^レ遠^ニ有^ニ二 窣^ノ堵^ノ波^ノ、
是^ニ如^ニ來^ニ顯^{シテ}暢^ニ真^ニ宗^ヲ、說^ニ蘊^ヲ
界^ノ之^ノ處^ノ所^ニ也^ニ。影^ノ(窟)西^ニ有^ニ二 大^{ナル}
石^ノ、如^ニ來^ニ嘗^ム於^ニ其^ノ上^ニ濯^{アラヒ}浣^ヒ、袈^サ
裟^{セリ}、文^ノ影^ノ微^キ現^{セリ}。

(5)

五之四

□□□□□□□□□□

迦式色伽王記別事

白兔誘迦式色伽王事

脇尊者事

西記第二 一身二両体像事

蟻嚙像形事

三尺塔神現事

盜賊改悔事

仏記七焼七建塔事

粘葉装 十五・三×十一・五纏【二七三函〇〇一号〇五】

〔見返し〕

健駄邏国、如来昔為國王、修菩薩行。

從衆生欲、恵施不倦、喪身若遺。於

此国、千生為主、即斯勝地、(千生)捨眼。文

又云昔釈迦如来於此、化鬼子母、令不害人。

故此国俗祭以求嗣。

又云昔独角仙人為姪女誘乱、退失神通。姪女

乃駕仙人肩、而還城邑。

健駄邏国

王城内東北有二故基、昔仏鉢

之宝台也。如来涅槃之後、鉢

流轉諸国、在波刺斯(城)外東

南八九里有卑鉢羅樹、高

百余尺、枝葉扶疏、蔭影

蒙密、過去四仏已坐、其下

猶現有四仏坐像、像賢

劫之中九百九十六仏皆当

坐焉。冥祇警衛、靈鑑潜

被^{ラシム}。釈迦如来於此樹^ニ下一^ニ南面^{シテ}
而坐^{シテ}、告阿難^ニ曰、「我去^テ世後^ニ、当^ニ
四百年^ニ、有^レ王命^{セラレニ}、世^ニ、号^{セン}迦膩色
迦^ト、此南^{シテ}不^レ遠^テ起^テ窣堵波^ヲ、吾^身所^レ
有^{アラユル}骨肉舍利^ノ、多集^{クメレ}此中^ニ。

白兔事

卑鉢羅樹^ノ南有^ニ窣堵波[、]

迦膩色迦王之所建^{フル}也。迦膩

色迦王以^テ如来涅槃之後第

四百年^ヲ、君臨^{シテ}膺^テ運^ニ、統^フ瞻部

洲^ヲ、不^レ信罪福^ヲ、輕毀^フ佛法^ヲ。毘

遊^{シテ}草沢^ニ、遇見^{ヒル}白兔^ヲ。王親

奔逐^{リフ}、至^テ此忽滅^ニ。見^テ有^ニ牧羊

□^{小カシユ}豎^ニ於林樹間^ニ作^ル小窣

堵波^ノ其高三尺^上。王曰、「汝

何^ノ所^{スル}爲^ル」。牧豎^{ツクル}對曰、「昔釈

迦仏聖智懸^{ハルカニ}記^{玉ヘリニ}、当^ニ有^テ国

王^ヲ於^テ此勝地^ニ建^{タテ}窣堵波^ヲ、吾身^カ

舍利多聚^ム其内^上。大王聖德

宿殖^{ムカシウヘテ}、名符^{カナヘリノ}昔記^ニ、神功勝福^{マコトニ}、允^ニ

属^{ヒヨフ}斯辰^ノ、故我今者先相警發^{ケイフ}」。

說^キ此語^ノ已^テ、忽然^{トシテ}不^レ現^セ。王聞^ニ是

說^ヲ、喜慶増^{マン}懷^{フモヒヲ}、自負^{ラクノム}其名大

聖先記^ノ、因發^{ナルコトヲ}正信^ニ、深敬^{ケン}仏

法^ヲ。周二小窣堵波^{メクテ}処^ニ建^ツ石窣

堵波^ヲ、欲^ス以^テ功力^ヲ弥^{ハタシ}中覆^{オホワント}其上^上、隨^ニ

其数量^ノ、恒出^ニ三尺^ヲ。若^レ是増

高^{シテ}、踰^{スキタリ}四百尺^ニ。基趾^{ソハタツル}所^ニ峙^{シテ}、周

一里半^{ナリ}。層基^{ニシテ}五級^サ、高一百五

十尺^{ナリ}。方^ニ乃^{タリ}得^レ覆^フ。小窠^{コサ}堵波^{トポ}。
王^ヲ用^シ喜慶^{シタ}。復^タ於^ニ其^ノ上^ニ更^ニ起^テ二

十五層^{ジュウゴソウ}金銅^{キンドウ}相輪^{サウリン}、即^{〔以テ〕}□^ニ如^シ

来^キ舍利^{セリ}一斛^{イッコク}而^ニ置^テ其^ノ中^ニ、式^{シキ}

□^{〔修カス〕}供養^{コウヤウ}。營^ニ建^ニ纒^ニ訖^ニ、見^{レハ}小窠^{コサ}

堵波^{トポ}在^テ大^ニ基^ノ東南^ノ隅^ノ下^ニ一傍^{ヨリ}

出^ス其^ノ半^ヲ、王^ノ心^ノ不^ニ平^シ、便^ニ即^ニ擲^{ナケ}

(後欠)

(6)

五之五了 世親菩薩造俱舍事

如意論師切舌事

波尼彌仙子得生速忘事

西記二

迦彌色伽王与脇尊者

訳俱舍事

粘葉装 十五・三×十一・五糰 【二七三函〇〇一号〇六】

脇尊者室東有^ニ故房^キ、世

親菩薩^ヲ於^レ此^{コニ}製^ス阿毘達磨

俱舍論^ヲ、人^モ而^テ敬^マ之^ヲ、封^{シテ}以^テ記^ス。

世親室南五十余步^ハ第二^ニ

重閣^ニ、末笈曷利他^ハ唐言^ハ如意^ニ

論師於^テ此^ニ製^ス毘婆娑論^ヲ。々師以^ニ

仏涅槃之後一^ノ千^ニ年^ス中^ニ利^ス見^ス也。

少^ワ好^ク学^シ、有^リ才^リ弁^リ、声聞^ル遐^ニ

被^ラ、法俗^ニ帰^ス心^ヲ。時室邏伐悉底

国^ノ毘訖羅摩阿迭多王^ヲ（超日）

威風遠^ク洽^ム、使^レ臣^ヲ諸^ノ印度^ヲ、日^ニ

以^ニ五^ノ億^ノ金^ノ錢^ヲ、周^ニ給^ス貧^ノ窶^ノ孤^ヲ

独^ニ。主藏臣懼^ニ国^ノ用^ノ乏^ニ置^ス

也、乃諷^シ諫^シ曰、「大王威被^ニ殊俗^ニ、

沢及^ヘ昆虫^ニ、請^フ増^シ五^ノ億^ノ金^ノ錢^ヲ、

以^テ賑^ニ四方^ノ匱乏^ヲ。府庫既空^ニ、更^ニ稅^ス

有^ニ土^ニ、重^シ斂^ス不^レ已^ニ、怨^ズ声^ノ載^ス揚^ス、則^チ

君上有^ニ周給之恩^ヲ、臣下被^ニ不^レ

恭^ク之^ヲ責^ム。王曰、「聚^レ有^レ余^ヲ、給^ス不^レ足^ニ、

非^ツ苟^ニ為^ス身修靡^ス二^ヲ国用^ニ。遂^ニ加^フ

五^ノ億^ノ、惠^ス諸^ノ貧^ニ乏^ニ。其^ノ後^ニ敗^シ遊^ス

逐^テ豕^ヲ、失^レ蹤^ヲ、有^リ尋^テ知^ル跡^ヲ者^ヲ、価^ヲ

一^ノ償^ス二^ノ億^ノ金^ノ錢^ヲ。如^レ意^ニ論^ス師^ヲ一^ヲ使^レ

人^ヲ剃^レ髮^ヲ。輒^フ賜^ニ一^ノ億^ノ金^ノ錢^ヲ。其^ノ国^ノ

史^ニ臣^ニ依^テ即^シ書^ス記^ス。王^ヲ恥^ニ見^ノ高^ニ、

心^ニ常^ニ快^ニ々^ニ、欲^ス罪^ヲ辱^ス。如^レ意^ニ論^ス師^ヲ。

洲日

衆楚一^ニ齊^ニ、不^レ免^ス其^ノ嘆^ヲ一^ヲ

乃^チ招^キ集^メ異^ノ学^ヲ德^ノ業^ヲ高^ク深^ク者^ヲ

百^ノ人^ヲ一^ニ而^シ下^シ令^ク曰、「欲^ヘ收^メ視^ル聽^ス、遊^ハ二^ノ諸^ノ

真^ニ境^ニ、異^ニ道^ニ紛^ニ雜^ニ、帰^ニ心^ニ靡^ニ措^ス。二^ノ乎^ヲ

今^ニ考^ス二^ノ優^ニ劣^ニ、專^ニ精^ニ遵^ニ奉^ス。二^ノ泊^ニ二^ノ乎^ヲ

集^リ論^ス、重^ニ下^シ令^ク曰、「外^ニ道^ニ論^ス師^ヲ

並英俊也、沙門法衆宜
善宗義、勝則崇敬弘法。負
則誅戮僧徒。於是如意詰諸
外道九十九人已退飛矣、下
席一人視之視之蔑如也。

因而劇談、語及火煙。王与外
道咸誼。言曰、「如意論師辭義
有失。夫先煙而後及火、此事
理之常也」。如意雖欲積難。無
聽覽者恥見衆辱、齟齬其

舌。乃書誠門人世親曰、「党援
之衆、無競大義。群迷之中、
無弁正論」。言畢而死。居未
久、超日王失國、興王膺運、表
式英賢。世親菩薩欲雪前

恥、來白王曰、「大王以聖德君臨、
為合識主命。先師如意學窮
玄奧、前王宿憾、衆挫高名。
我承導誘、欲復先怨」。其王
知如意哲人也、美世親雅操

焉、乃召諸外道与如意論者。
世親重述先旨、外道謝屈
而退。

烏鐸迦漢茶城西北行二十余
里、至婆羅睹邏邑。是製声

明論波伽尼仙本生処也。遂
古之初、文字繁広、時経劫壞、世
界空虛。長寿諸天、降靈導俗。
由是之故、文籍生焉。自時厥後、
其源泛濫、梵王天帝、作則隨

時、異道諸仙、各製文字、人相

祖述、競習所伝、学者虚功、難

用詳究、人寿命百歲之時、有二波

爾尼仙、生知博物、愍時澆

薄、欲削浮偽、刪定繁穠、遊

方問道、遇自在天、遂伸述作

之志。自在天曰、「盛矣哉。吾当

祐汝」。仙人受教而退、於是研精

覃思、摺摭群言、作為字書、

備有千頌、々々三十二言矣。究

極今古、総括文言、封以進上。

王甚珍異、下令國中、普使

伝習、有誦通利、賞千頌々

三十二言矣。究金錢。所以師

資伝授、盛行当世。故此邑中

諸婆羅門碩学高才、博物

強識。

婆羅睹邏邑中有二窣堵婆、

羅漢化二波爾尼仙後進之處、

如來去世、垂五百年、有大阿

羅漢、自迦濕弥羅国遊化至

此、乃見梵志捶調稚童。時

阿羅漢謂梵志曰、「何苦此兒」。

梵志曰、「令学声明、業不進」。

阿羅漢迫爾而笑、老梵志曰、

曰「夫沙門者、慈悲為情、愍傷

物類。仁今所笑、願聞其說」。阿羅

漢曰、「談不容易、恐致深疑。汝頗

當聞婆波爾尼仙製声明論。

垂訓於世乎」。婆羅門曰、「此邑

之子^{ナリ}、後進仰^ノ德^ツ、像設猶存^{セリ}」。

阿羅漢曰、「今汝此子、即是彼仙^{ナリ}。

猶^ヨ下^テ以^テ強識^ヲ、既^{ナラヒ}習世典^ヲ、唯談^{シテ}異

論^ヲ、不^ニ究真理^ヲ。神智唐捐^{シテ}、流轉

未^レ息^マ。尚乘^テ余善^ニ、為^{ナレリ}汝愛子^ト。然^{レハ}

則世典文辭^ハ、徒^{イタツナリ}疲^ニ功績^ヲ。豈若^{カンヤ}

如来聖教、福智冥滋^{ニマスニ}。曩者南

海之浜^ニ、有一枯樹^ノ。五百蝙蝠^ノ於^テ中^ニ

穴居^ス。有^テ諸商侶^ル止^ル此樹下^ニ、時属^{シテ}

風寒^ニ、人皆飢凍^ヘ、聚積樵蘇^ヲ、藴^{タク}

火^ヲ(其)下^ニ。煙焰漸熾^{クニシテ}、枯樹遂然^{ニモユ}。時^ニ

商侶^ノ中有^ニ一賈客^ノ、夜分已

後、誦^ス阿毘達磨藏^ヲ、彼諸蝠

蝠雖^モ為^ニ火困^ノ、愛^ニ好法音^ヲ、忍而

不^レ出[、]於^テ此命終^ニ。隨^テ業受^ク生^ヲ、俱

得人身^ヲ、捨^テ家修學^ス。乘^{シテ}聞法聲^ヲ、

聰明利智^{ナリ}、並証^{ニシテ}聖果^ヲ、為^ル二世福

田^ト。近^{コロ}迦膩色迦王与^ニ脇尊者^ヲ、招^テ

集^テ五百賢聖^ヲ、於^テ迦濕弥羅国^ニ、作^ル

毘婆沙論^ヲ。斯並枯樹之中^ノ五百

蝙蝠^{ナリ}也。余雖^{ヨモ}不肖^{ナリト}、是其^レ一數^{ナリ}。

斯則優劣良異^{ニニシテ}、飛伏懸殊^{ハルカニナリ}。

仁今愛^{セハ}子^ヲ、可^{シシテ}許^セ出家^ハ。(出家)功德^ハ、言^{コトヲモテ}

不^レ能^レ述^{ルコト}」。時阿羅羅漢說此語^ヲ。

已^テ、示神通事^ヲ、因忽不^レ現^セ。婆

羅門^ニ深生^{クシテ}敬信^ヲ。歎羨^{セシスルコト}、久之^シ、

具告^ニ隣里^ニ、遂放^{ニテ}其子^ヲ出家修

學^{セシム}。因即迴^{シテ}信^ヲ、崇重^ス三宝^ヲ。鄉人^{キヤウ}

(7)

從^ヒ化^{シテ}、於^レ今^{ヨク}弥^{フク}篤^{ヲシ} 從^ヒ烏^ウ鐸^{ダク}迦^カ
漢^{カン}茶^{チャ}城^{シヨウ}一^ニ北^{ホク} 躡^ハ山^{サン}涉^{セツ}川^{セン}、行^{コト} 六^{ロク}百^{ハク}
余^{ニシテ}里^ル、至^ニ烏^ウ仗^ウ那^ナ国^ニ一^ニ

二^ニ之^ノ一^{ハク}

無^ム憂^ウ王^{ワウ}与^ヨ大^{ダイ}天^{テン}退^{タイ}僧^{ソウ}徒^ト事^ジ

記^キ三^{サン}

迦^カ式^{シキ}色^{シキ}伽^カ王^{ワウ}脇^{ワキ}尊^{ソン}者^{シャ}集^{シツ}造^{ゾウ}三^{サン}藏^{ゾウ}事^ジ

粘^ネ葉^{エツ}装^{ソウ} 十^{ジュウ}五^ゴ・七^{シチ}×十^{ジュウ}一^{イチ}・六^{ロク}種^{シュ} 【二七三函〇〇一號〇七】

摩^マ偈^ゲ陀^ダ国^{クニ}無^ム憂^ウ王^{ワウ}以^ヨ如^ニ来^{ライ}涅^{ニエツ}槃^{パン}之^シ

後^コ第^{ダイ}一^{イチ}百^{ハク}年^{ネン}、命^{メイ}世^セ君^{クニ}臨^{リン}、威^{カイ}被^ヒ二^ニ

殊^シ俗^{ゾク}、深^{ケン}信^{シン}三^{サン}宝^{ホウ}、愛^{アイ}育^{イク}四^シ生^{セイ}。
時^ニ有^{アル}三^{サン}百^{ハク}羅^ラ漢^{カン}僧^{ソウ}、五^ゴ百^{ハク}凡^フ夫^フ
僧^ニ。王^ニ所^ニ敬^{ケイ}仰^{オウ}、供^{コウ}養^{ヤウ}無^レ差^サ差^サ。有^{アリ}凡^フ
夫^ニ僧^ニ摩^マ訶^カ提^{テイ}婆^ハ一^ニ（唐^{トウ}言^{ゴン}／大^{ダイ}天^{テン}）、闍^カ達^{ダツ}多^タ

智^チ、幽^ユ求^ス名^{メイ}実^{ジツ}、覃^フ思^シ作^{サク}論^{ロン}、理^リ違^{セリ}
聖^ニ教^{コウ}。凡^{ソル}有^{アル}二^ニ聞^{ブン}知^チ、群^{グン}徒^ト二^ニ異^イ議^ギ。無^ム
憂^ウ王^{ワウ}不^レ識^シ二^ニ凡^フ聖^{セイ}、因^ニ情^{ジョウ}所^ニ好^{コウ}、党^{トウ}二^ニ
援^{エン}所^ニ親^{シン}、召^{シヨウ}二^ニ集^{シツ}（僧^{ソウ}）徒^ト、赴^{シュ}二^ニ殍^{ヒョウ}伽^カ河^カ、
欲^ス三^{サン}沈^{シン}二^ニ深^{シン}流^{リウ}、総^{ソウ}徒^ト二^ニ誅^{シツ}戮^{リク}。時^ジ諸^{ショ}
羅^ラ漢^{カン}既^キ逼^{ハツ}二^ニ命^{メイ}難^{ナン}、咸^{ケン}運^{ウン}二^ニ神^{シン}通^{トウ}、陵^{リョウ}

（後欠）

二之二

雪山下退惡王^テ助仏法事

記三

病象布施進舍利事

竜被取舍利以禁術^一責返事

断食祈観音事

依先身象身多大事

粘葉装 十五・六×十一・三糰【二七三函〇〇一号〇八】

賭貨邏国^ノ咽摩咀羅王^ノ唐言雪／山下^ノ、

其先^ハ积種^{トリ}也。以^テ如来涅槃之後

第六百年^ヲ、光^{クモテ}有^{ツキアタル}疆土^ヲ、嗣膺^ニ

王業^ニ、樹^{タテ}心仏地^ニ、流^ス情法海^ニ。聞^テ

訖利多毀^カ滅^{スルヲ}、仏法^ヲ、招^テ集^ニ

國中敢勇之士^ヲ、得^{カリ}三千人^ヲ、

詐^{イツワ}為^ニ商旅^ノ、多齋^{クモクシテ}宝貨^ヲ、

挟^{ハサミ}隱^{クシテ}軍器^ヲ、来入^{テル}此国^ノ。々々之

君^ニ、特加^ニ宝礼^ヲ。商施^ハ旅^ノ之中^ニ、

又更選^ニ募^ニ得^ニ五百人^ヲ、猛

烈多謀^{ナリ}、各抽^テ利刃^ヲ、俱持^{ニテ}重

宝^ヲ、躬齋^ニ所奉^ヲ、持^テ以献^ス上。

時雪山下王去^テ其帽^ヲ、即^ニ其

座^ニ、訖利多王驚^{キワレテ}撰^{ヲクコトニ}無^レ措^ニ遂

斬^テ其首^ノ、令^{シテ}群下^ニ曰^ク、「我是賤

貨邏国雪山下王也。怒^ル此賤

種公^ノ行^{スルコト}虐政^ヲ、故於^{ニテ}今^ニ者^ニ、誅^ス

其有罪^ヲ。凡百衆庶、非^カ爾之

辜^{ツミニ}」。然其国輔宰臣遷^ヲ於^ニ

異域。一既平^{ニケテ}此国^ヲ、召^メ集僧徒^ヲ、式建^テ伽藍^ヲ、安^{ヤス}堵如^シ故^コ。復於^ニ此国^ノ西門^ノ之外^ニ、東面^{シテ}而跪^テ持^テ施衆僧^ニ。其訖利多種^ス、屢^ハ以僧徒覆^テ宗滅^レ。祀^{ニテ}世積^ニ其怨^ノ、嫉^ニ惡佛法^ヲ。歲月既遠^{クシテ}、復自称^ミ王^ニ、故今^ニ此国^ノ不^タ甚^タ崇信^セ。外道天祠^ニ、特留^{ニム}意焉^ヲ。新城^ノ東南十余里^リ、故城^ノ北大山陽^ノ、有^リ二僧伽藍^ニ、僧徒三百余人^{アリ}。其窣堵波中^ニ有^ニ仏牙^ノ、長可^{サハカリニシテ}二寸半^ニ、其色黃白^{ハルトキハ}、或至^ニ齋日^ニ、時放^ニ光明^ヲ。昔訖利多種^ノ之滅^{トキ}、佛法^ヲ也。僧徒解散^{シテ}、各随^テ利居^リ。有^ニ一

門^ノ、遊^ニ諸印度^ニ、觀^{シテ}礼聖跡^ヲ、伸^ニ其至誠^ヲ。一後聞^{ニテ}三本國平定^{スト}。即事^{トス}二歸途^ヲ、遇^フ二諸群象^ノ横^ニ行^{シテ}草沢^ニ、奔馳震吼^{スルニ}、沙門見已^テ、升^レ樹^{ニテ}以避^ル。是時群象相趨^{ワシテリク}、奔赴^ク、競吸^{テスワテ}二池水^ヲ、浸^シ二漬樹根^ヲ、互^{ヲモテ}共排^{ニハイ}掘^{シテ}、樹遂躡^{ニタフレタフル}仆^ニ。既得沙門^ヲ、負載^{ヒセリ}而行^テ、至^ル二大林中^ニ、有^リ二病象瘡^{ノキスヲ}痛而臥^{セル}。引^テ二此僧手^{ノヲ}、至^ス二所苦処^{ノニ}、乃枯竹所刺^{タルノナリサキ}也。沙門於是拔竹^ヲ、伝^{ツケテ}藥^ヲ、裂^{サキ}其裳^{ノヲ}、裹^{ツム}其足^ヲ。一別有^ニ二大象^ノ持金函^ヲ、授^ク二病象^ニ、既得^ニ已^テ、転授^{ヘテ}二沙門^ニ。々々開^{ケハ}函^ヲ、乃仏牙^{ノナリ}也。諸象圍繞^{シテ}、僧出^{ルニ}無^レ由^{ヨシ}。明日

齋時、各持^テ異果^ヲ、以^テ為^ニ中饌^ニ。食^シ已^ニ、載^レ僧去^ル。林數百里外^ニ、方乃^ニ下^リ之^ヲ、各跪拜^{シテ}而去^ル。沙門至^ニ國^ニ、西界^ニ、渡^テ一駛^{ハヤキ}河^ヲ、濟^ニ乎中流^ニ、船^ヲ將覆没^{セント}。同舟之人互相謂^テ曰、
「今此船覆^ル、禍是沙門^{ナリ}。々々必

有^{ラン}、如來舍利^ヲ、諸竜利^{トス}之^ヲ。船主^ヲ檢^シ(驗^{アキムル})、果得^{シテ}二仏牙^ヲ。時沙門拳^ニ二仏牙^ヲ俯謂^テ竜曰、「吾今寄汝^ニ、不^レ久來^テ取^{ラン}」。遂不^レ渡^テ河^ヲ、迴^{ヘテ}船而去^ル、顧^レ河歎^{ナシ}曰、「吾無^シ禁術^ヲ、竜畜所^ニ欺^カ」。重往印度^ニ、学^フ禁電法^ヲ。三歲

之後^ニ、復還^{タル}本國^ニ。至河之浜^ニ、方設^ク壇場^ヲ。其竜於^ニ是捧^{サ、ケテ}二仏牙^ヲ、函^ヲ以授^テ二沙門^ニ、々々持帰^テ、於此伽

藍^ニ而修^ス供養^ヲ。
伽藍南十四五里^ニ、有二小伽藍^ニ、中有^ニ觀自在菩薩立像^ヲ。其有^ニ

断^シ食誓^テ死^ヲ為^{シテ}期^ト、願見^{フミント}二菩薩者^ヲ、即從^リ像中^ニ出^{玉フ}二妙色身^ヲ。

小伽藍東南三十余里^{ニシテ}、至^ニ大

山^ニ、有^ニ故伽藍^{フルキ}、形製宏壯^{クワウナリ}、蕪漫良甚^{ニシ}。今唯一隅^{ノニ}、起^{タリ}二小重閣^ヲ。僧徒三十余人^{アリ}、並学^{ニス}二大乘法教^ヲ。

昔僧伽跋陀羅^ハ(唐言^ハ衆賢^ニ)論師^ハ、於此^ニ製順正里論^ヲ。伽藍左右諸窠

堵波^{アリ}、大阿羅漢^ノ舍利茲^ニ在^リ。野

獸山(猿)採^テ華供養^ス、歲時無替^{シル、コト}

如承^ニ二指命^ヲ。然此山中多^ニ諸靈

跡^ハ、或石壁横分^{ニレテ}、峰留^{タリ}馬跡^ヲ。凡^ソ

厥此類、其狀譎詭、皆是羅漢
沙弥、群從遊戲、手指魔画、
乘馬往来。遺跡若斯、難以
詳述。

仏牙伽藍東十余里、北山崖
間有、小伽藍、是昔索建地羅

大論師於此作衆事分毘婆

沙論。小伽藍中有石窠堵波、

高五十余尺、是阿羅漢遺身

舍利也。先有羅漢、形量偉大、

凡所飲食、与象同等。人議曰、

「徒知飽食、安識是非」。羅漢將

入寂滅也、告諸人曰、「吾今不
久当取無余欲、說自身所証
妙法」。衆人聞之、更相譏笑、咸來

集会、共觀得失。時阿羅漢告
諸人曰、「吾今為汝說本因緣、此
身之前報受象身、在東印

度、居王内廐、是時此国有二

沙門、遠遊印度、尋訪聖教諸

經典論。時王持我施与沙門、

載負仏經、而至於此。是後不

久、尋即命終。乘其載經

福力所致、遂得為人、復鍾

余慶、早服染衣、勤求出離、

不違寧居、得六神通、断三

界欲。然其所食、余習尚然。

每自節身、三分食一。雖有

此說、人猶未信。即升虚空、

入火光定、身出煙焰、而入寂

滅^ニ。余骸墜^テ下、起^ニ窣堵波^ヲ。王

城西北行^ノ 二百余里^{ニシテ}、至^ニ商

林伽藍^ニ、布刺拏割注^ニ〈唐言／円満〉論師、

於^テ此作^ル「釈毘婆沙論」。

」

【付記】 貴重な資料の翻刻をご許可下さった神奈川県立金沢文庫に
対し、心から御礼を申し上げます。また翻刻の際、ご指導を惜しま
れなかった黒田彰先生に感謝を申し上げます。本稿は日本学術振興
会科学研究費助成事業若手研究〔課題番号24K15971〕の一環で
ある。

(は こうえん・本学招へい研究員)